

工事事務(速報)の情報提供について

工事の安全管理には、日頃から万全を期していただいているところでありますが、この度、残念ながら別紙に示す工事事務が発生しました。

各事務(管理)所の工事現場において、このような工事事務が再び発生することのないように工事事務概要を皆様にお知らせ致します。

本資料を活用し、請負業者を適切にご指導頂き、再発防止に努めて頂きますようお願い致します。

【工事事務(速報)発生状況】 (H22.1.31現在)

	1月発生件数	累計件数	死亡者数	負傷者数
平成21年度(今年度)	5件	83件	1人	34人
平成20年度(昨年度)	11件	79件	1人	44人

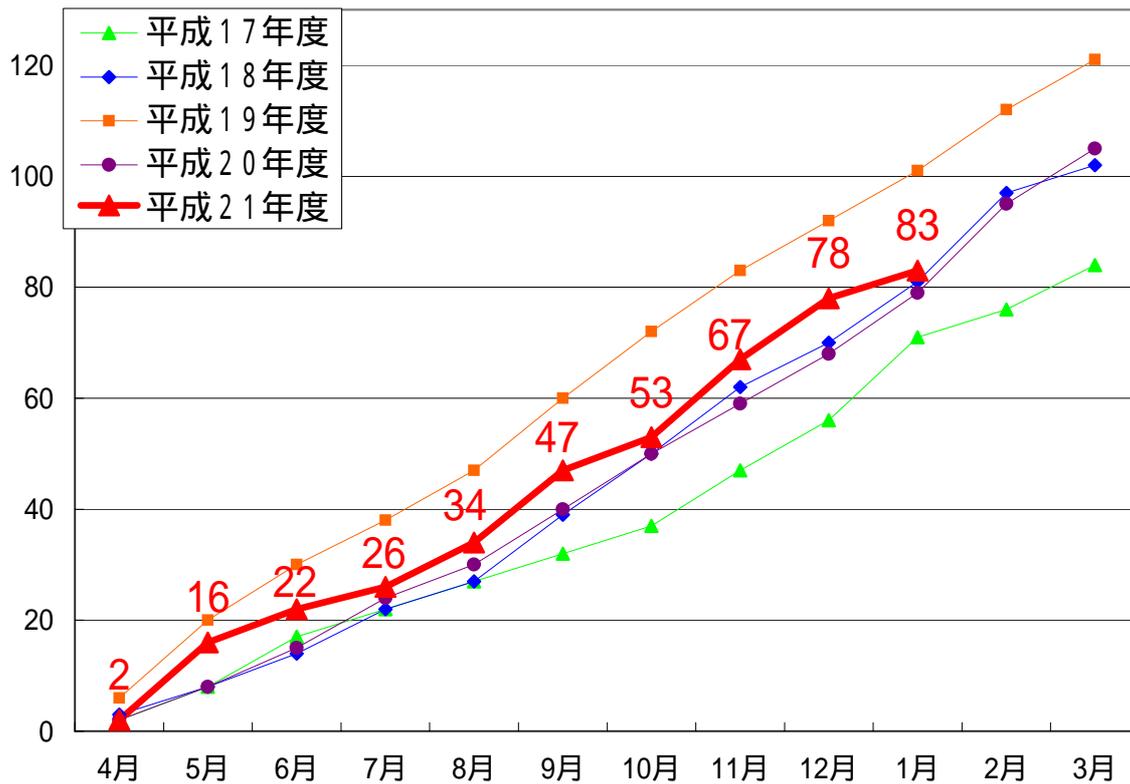
注1) 上記は、関東地方整備局管内の工事事務発生件数(速報)を示す。

注2) 「1月発生件数」は、1/1～1/31の間に起きた件数。(月毎分)

注3) 「累計件数」は、4/1～1/31の間に起きた件数。(累計分)

注4) 「死亡者数」・「負傷者数」は、4/1～1/31の累計人数を示す。

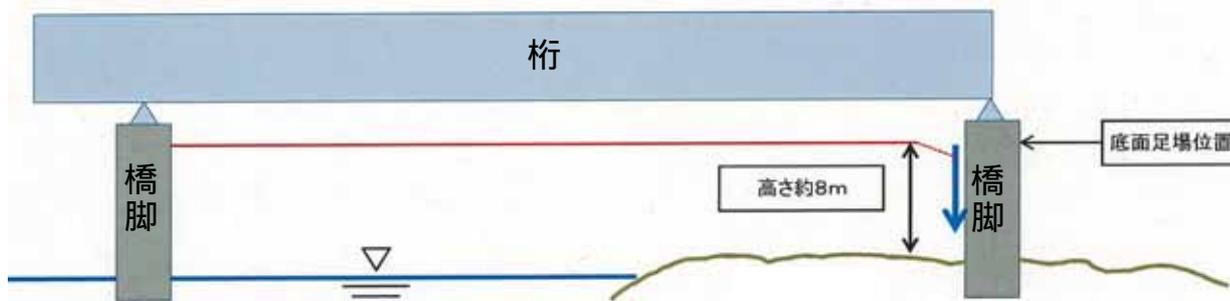
注5) 平成21年度の数字は「速報」であり、審査の結果、「不問」になる可能性がある。



問合せ先: 企画部 技術調査課 渡辺・平井 (TEL 048-600-1332)

発生日時	平成 22 年 1 月 17 日 (日) 10 時 00 分			天候	晴
工事情報	道路系事務所 塗装工事				
被災の状況	性別	年齢	職種	被災の程度	
	男	31	作業員	第3腰椎圧迫骨折	
事故概要	塗装を行うため、橋脚に吊足場を設置して作業をしていたところ、足場が1.5m程度下がり、橋脚と足場に隙間が生じたため、作業員が約8mの高さから中州に墜落、負傷したもの。				

事故発生状況



・吊り足場及び朝顔(板張り防護)の足場内でプラスト作業をしていた作業員が、足場床材端部が1.5m下がり、橋脚と床材との間に生じた隙間から**約8m下の中州に墜落**したものの。



足場内部状況

【事故発生原因】

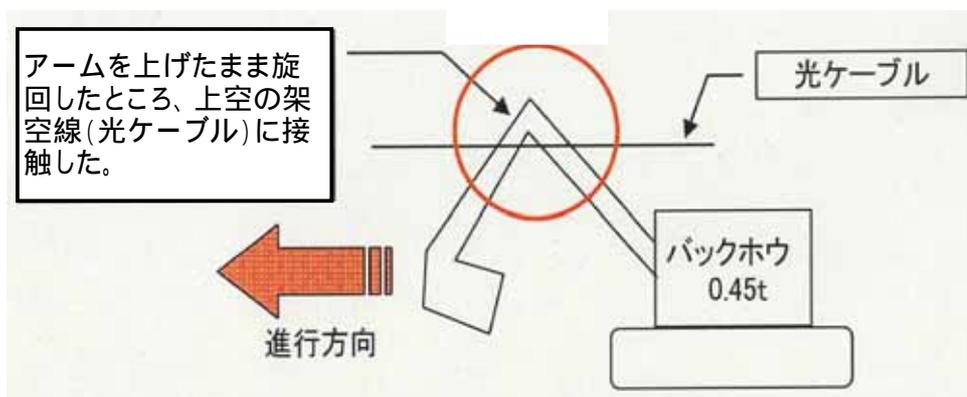
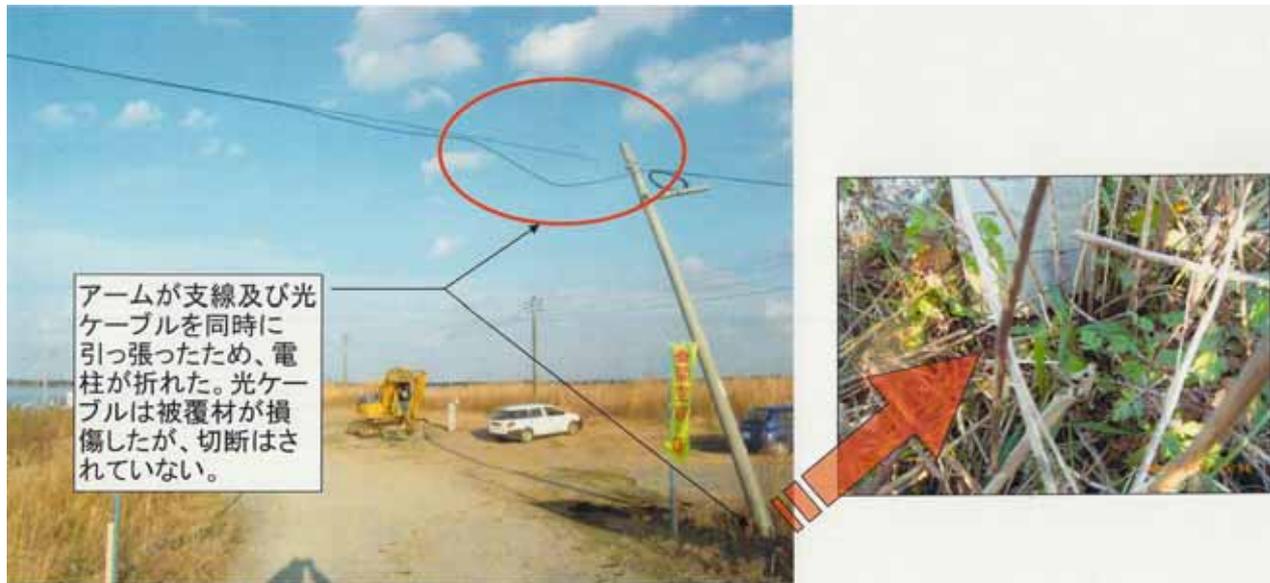
・足場の最大積載荷重について検討してなかったこと。
(労働基準監督署より、指導書あり)

【事故防止のポイント】

・足場上にて最大積載荷重を超えて資材等を積載することのない様、作業手順書又は作業前の安全点検活動の場で、作業員に周知・徹底する。 など

発生日時	平成 22 年 1 月 18 日 (月) 14 時 50 分			天候	晴
工事情報	河川系事務所 一般土木				
被災の状況	性別	年齢	職種	被災の程度	
	-	-	-	架空線(河川管理用ケーブル)切断	
事故概要	バックホウを移動させるために旋回したところ、アームが架空線(河川管理用光ケーブル)に接触し、ケーブル柱が折損したものの。				

事故発生状況



- ・当日は、土砂運搬を行うために、現場の道路側溝を敷鉄板で養生するため、バックホウ(0.45m³)を用いて、碎石の敷均しをしていた。
- ・作業が完了し、作業ヤードに帰ろうとした際、**誤ってアームを上げたまま旋回**してしまい、上空の架空線に接触させてしまった。

【事故発生原因】

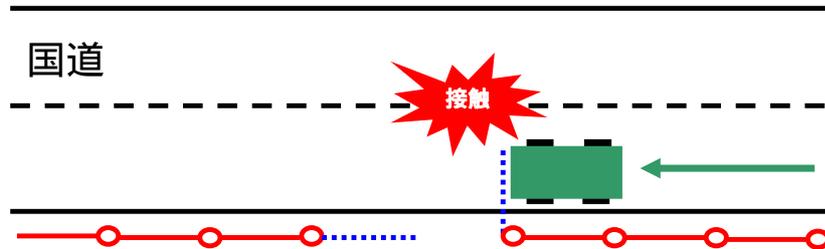
- ・旋回時の周囲安全確認不足によるもの。

【事故防止のポイント】

- ・「旋回時の周囲安全確認」の周知・徹底。
- ・誘導員の適切な配置 など

発生日時	平成 22 年 1 月 21 日 (木) 15 時 50 分			天候	曇
工事情報	道路系事務所 一般土木				
被災の状況	性別	年齢	職種	被災の程度	
	-	-	-	第三者車両バンパー損傷	
事故概要	常設規制帯の仮設ゲートが突風に煽られ、国道上に停車中の一般車に接触し、損傷させたもの。				

事故発生状況



・当日は、午後から風が強まっていた。

・午後に工事用車両の出入りがあったため、簡易な施錠状態(車輪のロックをかけたのみ)だった。

・突風によりゲートが車道側に徐々に動き始め、作業員がその状況に気が付いたが間に合わず、国道上に停車していた一般車に接触したものの。

【事故発生原因】

・強風時に、ゲートを簡易な施錠状態のままにしていたこと。

【事故防止のポイント】

・急な突風にも耐え得るゲートの逸脱防止措置を行うこと など

発生日時	平成 22 年 1 月 29 日 (金) 8 時 30 分			天候	曇
工事情報	河川系事務所 一般土木				
被災の状況	性別	年齢	職種	被災の程度	
	-	-	-	バックホウ(0.45m ³)の転倒	
事故概要	クレーン機能付バックホウにて帯コンクリート荷下ろし作業中、バランスを崩し、横転したもの。				

事故発生状況



・トラックの荷台に積載した帯コンクリート(2.6t)をクレーン機能が付いたバックホウにて荷下ろししようとした。

・しかし、荷台の奥から手前に引き寄せようとしたところ、警告音が鳴ったため、クレーンモードを解除し、手前に引き寄せた。

・その後、**クレーンモードに戻さず**に荷下ろしを継続したところ、バックホウが傾き、横転した。

【事故発生原因】

・バックホウの目的外使用によるもの。

【事故防止のポイント】

・目的にあった運転操作の徹底 など